

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 3 日現在

機関番号：11101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370202

研究課題名(和文) 森鷗外の訳業を媒体とした1910年代日欧文化情報伝達の調査と分析

研究課題名(英文) An investigation and analysis of the culture communication between Japan and Europe of the 1910s through the translation of Mori Ougai

研究代表者

山口 徹 (YAMAGUCHI, Toru)

弘前大学・人文学部・准教授

研究者番号：10367013

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、森鷗外による翻訳作品とその原典との比較分析を行い、次にそれが鷗外の創作作品にどのような反映が生じたかという点について検証した。これにより、近代日本とヨーロッパとの文化情報伝達の事例の中でももっとも高度な一面について明らかにすることができた。

広範な領域に亘って多くの訳語を日本語に定着させた鷗外の文業は、近代社会の形成をソフト面から支援した点でも重要であり、その意義を幅広く問う必要がある。本研究の成果は、近代日本の形成期における国際文化情報の伝播と影響についての実態解明に繋がるものである。

研究成果の概要(英文)：In this research, first the comparison between translation work by Mori Ougai and the original text was performed. Next the influence that Ougai's translation work made on his novels was investigated. In this way, it was able to clarify the most advanced example of the cultural communication between modern Japan and Europe.

Numerous words translated by Ougai have been rooted in Japanese. The work of his translation is important even to the point that supported the formation of the modern society and there is significant necessity to widely investigate them. The result of this study leads how the diffusion of the international culture information was made and its influence in the modern formative period in Japan.

研究分野：日本近代文学

キーワード：森鷗外 翻訳 文化情報 日欧間 1910年代

1. 研究開始当初の背景

現在からおよそ百年前にあたる 1910～20 年は、いわゆる「一体化した世界」(I.ウォーラステイン)の成立期にあたる。この間、日露戦争、第一次世界大戦をはさみ、シベリア鉄道、大陸横断鉄道、無線電信などの開発・実用化がつぎつぎと行われ、物流・情報伝達における飛躍的進歩が遂げられた。その結果、欧米系の資本、メディアによって張り巡らされたネットワークを介し、ヨーロッパ発の文化が急速に広がるとともに、世界各地で起こった事象が集約され、編成される事態が生じた。

当時、国家の要職(陸軍軍医総監・陸軍省医務局長など)にあった森鷗外は、全線開通したばかりのシベリア鉄道経由(従来1ヵ月程かかっていた輸送期間を半減した)で、ドイツ、フランスから主要新聞・雑誌を二週間おきに輸入。世界各地の最新の動向を精力的にチェックしはじめていた。「鷗外豊熟の時代」と呼ばれるこの期の活動のうち、海外最新情報紹介記事「椋鳥通信」や翻訳史上の金字塔と言われる『ファウスト』を含む訳業は少なからぬ領域を占めているが、その国際的な意義を正当に評価し得る視座がじゅうぶん得られていない状況にあった。

この期の鷗外の仕事に関連諸領域と世界文化史的な広がりにおいてとらえることで、1910年代の世界的な情報伝達のネットワークの実相の一端を質的・量的に把握・評価することが可能と考え、本研究を構想、遂行に着手した。

2. 研究の目的

本研究の目的は、森鷗外によって翻訳された文学作品並びに海外情報記事の原典及びそれらに関する当時の学術研究の質的調査とその比較を通じて、近代日本とヨーロッパとの情報伝達の高度な事例を明らかにすることである。

研究の中心となるのは、鷗外による海外情報翻訳記事「椋鳥通信」の人名索引データベースの作成時に判明した 1910 年代の国際的なメディア状況、欧州を中心とする最新の学術状況を踏まえた鷗外の俊敏かつ旺盛な反応の精査である。

日本の 1910 年代は、明治末～大正中期にあたる。この時期は、日清・日露戦争のあった明治、日中戦争から太平洋戦争へと至った昭和に比べ、平和裏に文化が爛熟したという印象で捉えられることが多い。しかし、世界のネットワーク化が急速に進んでいた当時

の文化状況を、日本国内の風潮だけから捉えても充分とはいえず、国際的な関係性の中に位置づける必要がある。本研究では、鷗外の訳業を例に当時の日本における国際文化情報の受容の水準とともに、鷗外により再編成されて発信された知的構造物の性質について解明していく。

3. 研究の方法

以上に述べた研究開始当初の背景と目的を踏まえ、以下のような手順と方法により研究を推進した。

(1) 鷗外翻訳作品リストの作成

鷗外翻訳作品のリストを、原作者、邦題、原題、鷗外翻訳の原典およびその使用言語、時事評論の有無といった項目に分けて作成し、文献調査における照合作業が効率的に行えるようにした。

(2) 欧州学術・メディア状況の調査と鷗外訳文との照合

鷗外「椋鳥通信」に紹介された記事をもとに、当時、欧州で最新の話題として報道された関心事を鷗外の訳業と照らし合わせて抽出。報道やレビューで伝えられた内容と鷗外の翻訳との関わりを精査しながら焦点を定めた。

(3) 鷗外訳業の特質と傾向に関する考察

ドイツ系新聞雑誌における時事評論・文芸評論の動向を参照しつつ、鷗外の訳業の具体的背景を捕捉した。そのうえで、同時期の鷗外の創作に、これらがどのように反映したか、分析を加えた。

以上の手順と方法によって進展した内容を総合し問題点を焦点化したうえで、森鷗外翻訳作品および同時代思潮の特質について一連の論考をまとめた。

4. 研究成果

本研究では、森鷗外による翻訳作品とその原典との比較分析を行い、次にそれが鷗外の創作作品にどのような反映が生じたかという点について検証した。成果の一部は、次の欄に挙げた招待講演2本を含む学会発表でそれぞれ個別の内容として報告し、本研究の最終的な成果については査読付論文にまとめた。

学会発表欄(1)にあげた海外招待講演および特別講義では、「椋鳥通信」に伝えられ

た情報の主要な発信地であったドイツで行ってきたものであり、当地での1910年代のメディア状況と欧亜間の情報伝達網の実情について報告するとともに、鷗外の翻訳活動が果たしたターミナル的な役割について、数編の作品に言及しながら論じ、好評を得ることができた。

つぎに同じく(2)にあげた招待講演とシンポジウムにおいては、おもに美術・学術面での展開に着目し、鷗外「椋鳥通信」に見られるヨーロッパ美術の最新の動向と博物館事情への注視を取り上げながら、鷗外の著述・業績・活動との関わりを具体的に示しながらその総体を浮き彫りにした。

雑誌論文欄にあげた査読付論文では、本研究期間の取り組みを凝縮して論じた。ここでは各論としてまとめるために、「椋鳥通信」でも継続的かつ高い頻度で取り上げられていたゲーテ・リバイバル(世紀転換期前後のドイツで高まっていたゲーテ及びファウスト研究)について焦点化した。鷗外の翻訳が『ファウスト』に留まらず、高度な形で結実しはじめていた周辺研究、ビルショースキー『ギョオテ伝』とクノー・フィッシャー『ファウスト考』の編訳までに及んだかということの問題意識として持ちながら、この時期にゲーテ及び『ファウスト』を集中的に扱ったことの意味を中編小説『青年』の執筆・中断動機と関連させる立場を取った。その結果、ドイツ新時代のユーゲントに類した一青年の造形においてなされた最新の時代思潮と古典との融合の試みが、古伝説と国家意識についての本質的な思索と連鎖するだけでなく、国内では夏目漱石作品、国外ではシェークスピア作品及び最新のゲーテ研究との参照関係において中座した可能性があることを指摘した。複数のテキストと原典及び周辺の学術研究との照合によって明らかにすることで、文化的・歴史的移植としての翻訳と鷗外の批評精神をめぐる問題として提起しなおした。

これらにより、近代日本とヨーロッパとの文化情報伝達の事例の中でもっとも高度な一面について詳らかにすることができた。研究の中核的な部分に関しては期間中、上記のような発表の機会を得てきたが、それ以外の部分についても今後継続的に発表していくつもりである。「飛行機」「情報」「交響曲」など鷗外の文業における使用(鷗外自身が初訳したもの以外も含む)を通じ日本語に定着した訳語は多い。これらはいまだ実物を知らない社会に新たな概念をわかりやすく移植・導入しようとしたものであったわけだが、この面における鷗外の旺盛な仕事は、近代社会の形成をソフト面から支援した点でも重要であり、今後もその意義を幅広く問い続けていく必要がある。本研究の成果は、

近代日本の形成期における国際文化情報の伝播と影響についての実態解明に繋がるものである。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 1 件)

(1) 山口徹(単著)

「鷗外『青年』における青年像 時代思潮と古典解釈融合の試み」
『国語と国文学』2016年6月号 通巻1111号
(東京大学国語国文学会、明治書院)
pp.35-50(査読有)

〔学会発表〕(計 2 件)

(1) 山口徹(単著)

「鷗外「椋鳥通信」- 第一次世界大戦前夜の国際情報伝達の様相」
Mitteilungen eines Landvogels (Mukudori tsùshin), Mori Ôgais transnationale Rundschau am Vorabend des Ersten Weltkrieges
(海外招待講演 2014年6月19日 於ベルリン森鷗外記念館 ドイツ)

(2) 山口徹(単著)

「鷗外の伝えたアート・シーン ドキュメンテーションとしての『椋鳥通信』及び全人名索引」
アート・ドキュメンテーション学会第80回研究会+第58回見学会「文学のドキュメンテーションと文学館」(招待講演+シンポジウム 2013年10月27日 於文京区立森鷗外記念館 東京都)

(参考) 山口徹(単著)

「森鷗外の『椋鳥通信』」
Mori Ôgais „Mitteilungen eines Landvogels” (特別講義 2014年6月13日 於ハイデルベルク大学日本学研究所 ドイツ)

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：

発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

山口 徹 (Toru YAMAGUCHI)
弘前大学・人文学部・准教授
研究者番号：10367013

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：